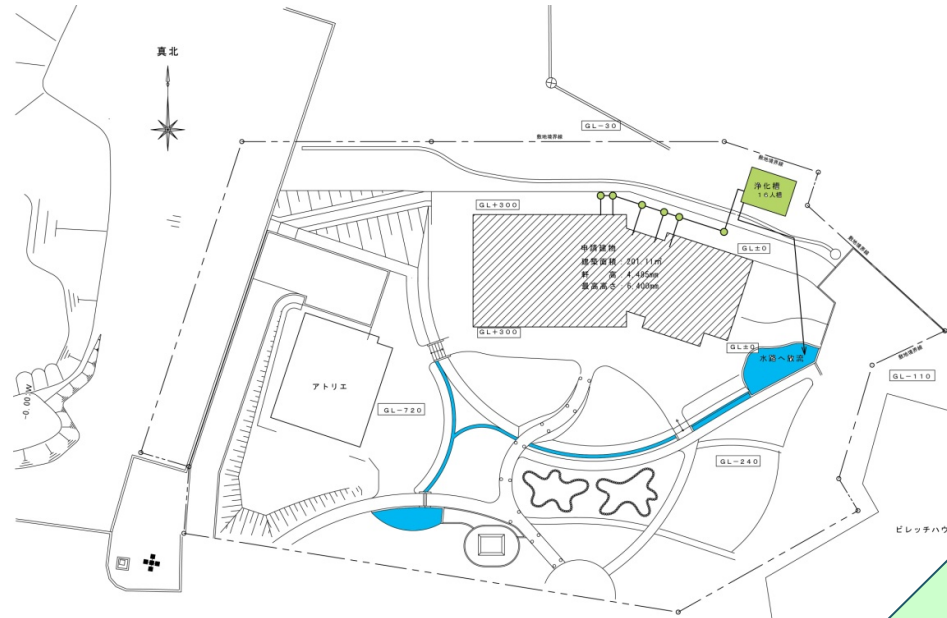


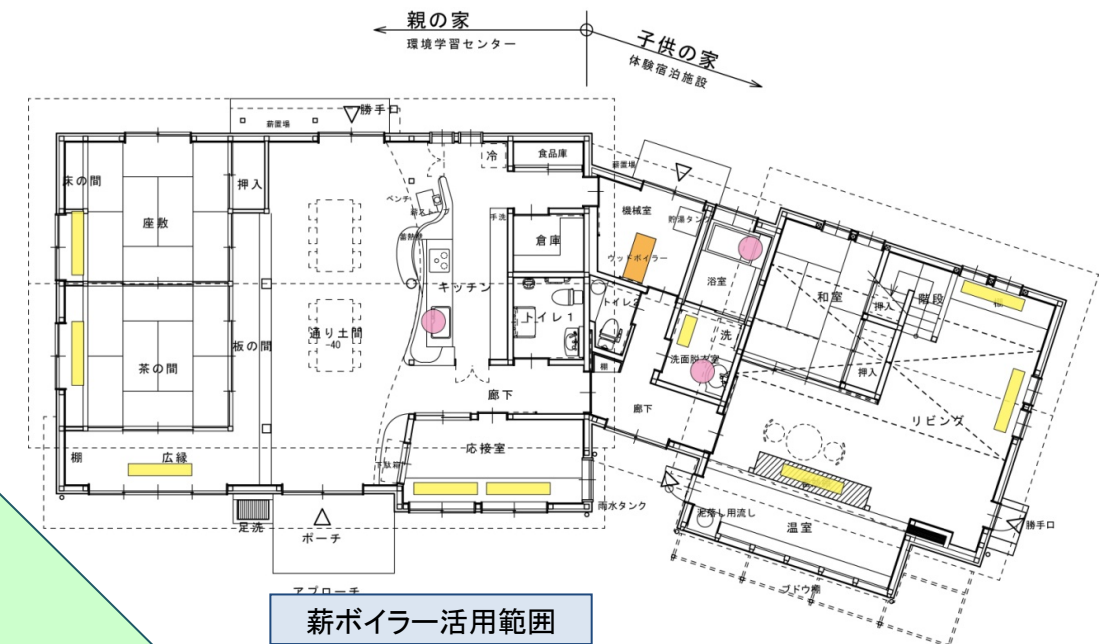
## ①排水に配慮する

- ・“雨水→トイレ→浄化槽→畑→台所→生活者”の水循環系
- ・一次浄化水(浄化槽で処理した水)の、窒素やリンを植物吸着する“環境にやさしい水路”



## ②木質燃料にこだわる

- ・地産地消が可能であり、輸送・送電時のロスが少ない
- ・欲しいのは低温熱(暖房室温 20℃、給湯 40℃)であり、薪(+太陽熱)でも十分快適
- ・薪ストーブは、補助暖房と調理に使用



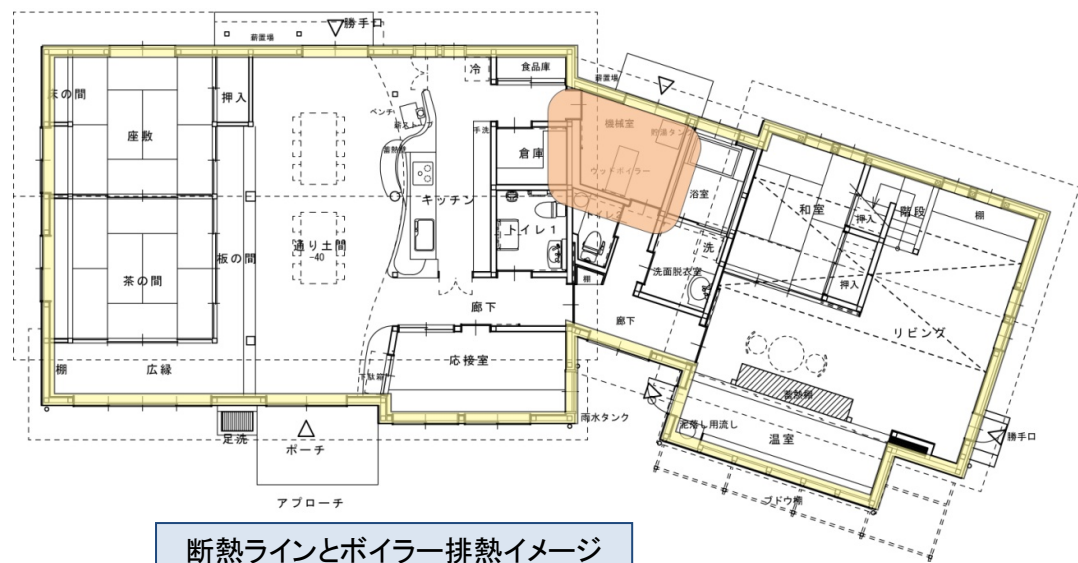
4つの「までい」な取り組み  
住宅設計にあたり、特に重視した事項として・・・

- ①上流地域の村として「排水に配慮する」
- ②輸送エネルギーも考慮し「木質燃料にこだわる」
- ③生活排熱や、太陽熱など「身の回り」にあるエネルギーを活用する
- ④温熱環境を安定させるため「様々な熱を蓄える」

が、挙げられる。

## ③身の回り」にあるエネルギーを活用する

- ・水・エネルギーの地産地消、屋敷地内での物質循環
- ・夏場の南西風の有効活用
- ・断熱性能の確保により、(人間や機器等の)排熱を有効活用
- ・断熱ラインの内側の機械室排熱も有効活用(夏は換気)



## ④様々な熱を蓄える

- ・「基礎断熱」の採用で、床下コンクリートが巨大な蓄熱部位になる
- ・薪ストーブ周囲を「石積み」にして蓄熱する
- ・太陽熱を「蓄熱障子」に蓄える
- ・子世帯の南側に設ける「石の棚(ふとんかごの石積み)」に、冬は太陽熱、夏は涼気を蓄える

